

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770100834		
法人名	社会福祉法人ゆうなの会		
事業所名	グループホーム コスモス		
所在地	那覇市識名2丁目13番57号		
自己評価作成日	平成29年 10月 20日(金)	評価結果市町村受理日	平成30年 3月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=4770100834-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=4770100834-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	平成29年 11月 22日(水)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームコスモスでは、介護理念に「健やかで、いっしょに、笑顔溢れる毎日を過ごして頂く」を掲げています。入居者の個々に合ったペースでサービスの提供を行っています。また、生け花サークル活動、アニマルセラピーやおやつ作り、買い物やドライブ等の各種予定を立てて、生活の中での楽しみや趣味を持って頂けるようにしています。地域ボランティアの方が定期的に施設に来所され、入居者との交流を深めています。入居者の健康面に於いては、毎日のバイタルチェックを行い、主治医、訪問看護と連携し、健康の維持が出来るように支援しています。ご家族には、毎月のお便りや電話連絡、面会時に入居者の状況要望などの相談を伺い、ご家族に安心して頂くように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内には、花や絵が飾られており、また、様々な動画視聴の機会を多く設けることにより、多様な利用者の感性を刺激する環境が整備されている。事業所内の設備を活用した、ボランティア活動にも積極的に取り組み、地域住民の声に応じて、勉強会を実施する等地域との交流が活発であり、地域密着型の理念に基づいた取り組みが行われている。利用者の排泄の自立支援のために、リハビリパンツから、布パンツへの切り替えに積極的に取り組み成果を挙げている。又、利用者のADL維持の取り組みに対しても利用者・家族の意向を踏まえて、意欲的に取り組んでいる。事業所の設備・運営全体を通して、理念に基づいたケアが意識化され実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの介護理念を事業所内に掲示し、職員全員が理念を理解し、意識を高めながら理念に沿ったサービスの提供を行っている。	月に1回のミーティング・勉強会の際に理念の共有を行っている。定期的なボランティア活動を通して、地域密着型の理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩や地域行事へ可能な限り参加し、利用者が地域とのつながりや、楽しみを持っていただけるように努めている。また、職員は年3回の地域の清掃活動に参加し、地域住民との交流を深めている。	老人福祉センターが近隣にあり、定期的に交流をしている。福祉まつり際には、展示発表を行い、啓発活動を行っている。事業所内で、「いきいき百体操」を週に1回地域住民のために実施しており、参加者は増加している。その活動を通して、要望のあったオムツ交換方法の勉強会を企画実施した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎週木曜日に地域交流ホームにて、いきいき百歳体操に地域の方々と共に参加している。入居者の家族からだけでなく、地域の方々からの問い合わせや介護相談にも対応させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の近況報告や、ホームの活動内容、現状の課題の検討・意見・要望を伺いサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、定期的開催され行事・事故、ヒヤリハット報告が行われている。事故については丁寧な報告があり、委員との検討を深めている。外部評価・実地調査結果についての報告も記載されている。運営委員の内、第三者委員が少ない構成となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	那覇市グループ連絡会や運営推進会議において市の担当職員と定期的な情報交換を行っている。必要に応じて相談が行えるような協力関係を築いている。	市の担当職員は、運営推進会議に毎回出席しており、情報交換を行っている。グループホーム連絡会にも毎回出席しており、協力関係を構築している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を実施して、身体拘束についての理解を深め、拘束しないケアに取り組んでいる。	月に1回勉強会を開催している。身体拘束については、年に1, 2回の頻度で企画している。勉強会では、声掛け方法、優先順位のつけ方等について事例を用いて検討している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する勉強会を実施し、虐待についての理解を深め、職員同士が虐待の徹底防止に努めている	虐待防止については、法人全体での研修会が定期的に行われている。主に視覚教材を用いて学習を深め、日常の業務に活かしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について勉強会を実施し、職員の理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学の際に、料金やサービス内容について説明し、理解を得た上で入居申込みして頂いている。契約の際には、契約書・重要事項説明書に沿って説明し、項目毎に気になる事や疑問がないか尋ねながらご理解、納得して頂いた上で契約を締結している。改正の際にも、説明を行い理解を得て同意を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、入居者との日常的な会話の中から思いや意向を確認し、ご家族面会時に入居者の生活の様子を報告し、ご家族の意見や要望を伺うようにしている。2か月に一回、運営推進会議を実施し、ご家族、知見者、包括支援センターの皆様に参加して頂き、報告や意見を求める様になっている。	家族の面会時、ケアプランの見直し時に、ご本人・家族の意向を確認している。特に利用者の体調については、詳細な報告を行っている。ADLの維持を要望される家族については、歩行支援を計画的に実施することで反映している。	

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の気付きや要望・提案を聞くように心掛け、月1回のミーティングでの意見や情報を取り入れ、業務の見直しやケアに繋げるように努めている。	職員の提案で、リハビリパンツから布パンツとパットの併用に切り替えることができた。職員の働きやすい環境を意識し、整備を行っている。法人内には、相談窓口も設置しており、職員個々のケアを実施している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の面接を通して人事考課を実施し、職員個々の目標や取り組みの状況を確認し、向上心を持って就業できるように努めている。職員の実績は評価し給与に反映できる仕組みとなっている。	職員構成としては、非正規職員が多い。職場の環境整備を進めることにより職員の定着につなげる取り組みを行っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の事業所での勉強会の開催や職員のスキルに合った研修へ派遣し、参加後は報告書を提出し、研修内容を職員間でも共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の定例会、研修会に参加し、他事業所との交流を図り、施設見学や事例検討等を通して意見や経験をケアに活かしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの導入前には、本人やご家族と面会し、本人の心身状態や不安、喜び等、本人の思いを理解する様に努め、本人が安心して生活が送れるよう信頼関係作りを努めている。		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談時に現状やサービスの利用状況等を伺い、ご家族の意向を理解し介護相談や助言を行うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人・ご家族の思い、状況等を確認し、相談を繰り返す中でお互いの信頼関係を築きながら必要なサービスに繋ぐ様対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存機能を考慮し、洗濯物たたみや食事の盛り付け等、日常生活で行われる家事と一緒に取組み生活を共に築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人の日頃の様子を報告・相談しながら共に支える関係作りに努めている。又、誕生会や施設行事への参加を声掛け、利用者ご家族の良好な関係が保てるように努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでと同じように、ご家族の方が散髪をしたり、一緒に教会に行ったりと関係継続を支援している。ご家族や友人など面会のあった際には、楽しく過ごして頂けるように支援している。	図書館への外出の要望があり、月に1回外出支援を行い馴染みの場を継続する支援をおこなっている。 自宅周辺へのドライブを行い地域関係の把握や想いの共有を図っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良好な関係作りを築けるように食卓席を配慮したり、うまく関わることのできない利用者には、職員が間に入り楽しくコミュニケーションを取れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	環境が変わっても、これまでの生活を継続的に行えるよう、他の事業所へ、情報提供・支援状況を伝え、本人や家族がいつでも相談できるよう心掛けている。転居後も必要に応じて情報を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や行動・表情等の中から、その方の思いや意向を把握する様に努めている。ご家族には、直接意向確認を行い、ケアプランに反映している。	家族からのADLの維持という要望について、ご本人の状態や以降も確認しながら歩行支援を行っている。利用者間のトラブルの際、両者の想いを確認し、適切な介入を行い、席替え等の配慮を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴や職歴等を本人やご家族から情報収集し把握に努めている。また、入居後も必要に応じ本人などから情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの体調の変化や行動、生活リズムなどを職員全員が把握しており、生活・心理面の視点でも本人のできる事を積極的に勧め、取り組んでもらっている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の日常的な関わりの中での思いや意向を把握し、職員全員で検討し、ケアプランに反映させるようにしている。状況の変化に伴いプランの変更、見直しを行っている。	日々のチェック表を活用し、日常的な関わりで把握できた思いや意向を反映するケアプランの作成を行っている。6か月に1回定期的な見直しと状態変化によるプラン変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の食事・水分量、排泄等の身体的状況、生活の様子を記録し、職員全員が情報を共有しケアに努めている。また、利用者の状態変化や職員の気づきなど、細かい事でも申し送りを行い今後のケアに活かす様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や家族の意向に配慮しながら、状況に応じて柔軟な対応が出来るように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館の利用や地域ボランティアによるウクレレ演奏、大正琴、いきいき百歳体操に参加している。他にも、地域の商業施設や公園などに出掛けている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関との連携に努め、受診など迅速な対応が出来るように努めている。また本人、家族が希望するかかりつけ医は継続して利用して頂き、生活の様子や体調を伝えるなどして受診を支援している。	入居時に家族本人の希望により、殆どの方が協力医をかかりつけ医に変更している。定期受診はご家族対応を基本としているが、都合が合わない場合は管理者が対応している。診療内容は受診後、即日職員に周知している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週1回来所し、入居者の健康状態の記録をもとに報告し、変化等のある入居者については適切な助言をもらっている。それ以外にも必要時には、相談できるように24時間体制で連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関に本人の既往歴・バイタル・薬や支援方法に関する情報を提供している。職員は見舞いを重ね、家族とも回復状況等情報交換し、退院支援に結びつけている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針について説明を行い、納得され同意を頂いている。重度化に伴い早い段階から主治医、ご家族と話し合い今後の方針を確認し、医療機関・職員との連携体制を組み、安心して終末期を迎えられる様、随時意思を確認しながら取り組んでいる。	重度化した場合における対応指針を入居時の重要事項説明の際に、説明しご家族本人の同意を得ている。本人や家族の意向も早い段階で話し合い確認し医療機関や訪問看護と連携体制を組み支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡体制の確認、対応について定期的に話し合い、個別ファイルを作成し緊急時に備えている。緊急時の連絡表やマニュアルを目の付く場所に掲示し対応が行えるよう備えている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域住民協力のもと年2回の避難訓練を行い、職員へ消火器の使い方などの訓練や実際に利用者を誘導しながら避難経路の確認を行っている。	施設全体での避難訓練を年2回、夜間を想定した訓練と消防訓練を実施している。消防通報装置は2階の事務所に設置されている。職員は緊急時マニュアルの手順を把握している。備蓄は3日分準備している。	火災以外の災害時における対応について、マニュアル作成の取り組みが求められる。



自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげないケアを心掛け、本人を傷つけてしまわないよう声掛けや対応に配慮する様に努めている。	利用者の気持ちを第一に尊重し、本人のやりたいことを制限せずゆったりと見守るよう努めている。入浴や排泄介助は同性介助を基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を尊重し、本人が決めやすいよう複数の選択肢を提案したり、意思表示が困難な方でも会話の中や表情の変化を読み取り、職員側で決めた事を押し付けるようなことはせず、利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるものの、個人のペースや体調などに合わせて柔軟な対応を行い、希望に添えるような支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服は、ご本人で決めて頂き、自己決定がしにくい方には職員と一緒に選んでいます。ヘアスタイルは、本人の意向を確認しカットや毛染めなど家族の了解を得て行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや片付けを職員と一緒にいたり、雑談を交えて楽しく食事を出来るよう心掛けている。献立の材料などを尋ね、旬な食材を知ってもらえるような声掛けを行っている。	食事は事業所内の厨房で作られ、メニュー(お品書き)を書いたり、盛り付けは利用者が手伝ったりしている。2, 3ヶ月に1度は外食支援を行い、ステーキやイタリアン、バーベキュー等美味しい食事を楽しく食べる支援を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量などチェックし記録している。食事摂取量の少ない方には、栄養補助食品や野菜ジュース、ソフト食等、個々に合った食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、衛生水で口腔ケアを行っている。自力で出来る方へは、声掛けを行い、支援が必要な方へは口腔ケアを実施している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握し、失敗のないようにその方に合わせた声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表を用い、全員の排泄パターンを把握している。失敗のないよう事前に声かけを行い、全員がトイレでの排泄ができるよう自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食、水分摂取の確認と牛乳、コーヒー等も提供している。水分摂取量の少ない方へは、ゼリーの提供もしている。午前・午後とラジオ体操、散歩、歩行訓練等を取り入れ、排泄時には、腹部マッサージを行い便秘対策に努めている。状況に応じては、医師に相談し下剤の調整をしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回は入って頂き、ご本人の希望や健康状態、気分など必要に応じて柔軟に対応している。入浴をゆっくり楽しんで頂けるよう本人のペースに合わせた支援を行っている。	入浴は週に3回の個浴を基本としているが、本人の希望と状態により入るタイミングは柔軟に対応している。足浴も積極的に行い、足爪の感染症をゼロにした実績がある。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活ペースに合わせ、昼夜逆転のない程度の午睡をして頂き、夜間も十分な睡眠がとれるよう、日中の活動、適度な運動(体操・散歩等)を取り入れている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋ファイルを作成し、現在服用している薬の効能、副作用を職員が分かるようにしている。服薬時は、最後まで服用できたか見届けている。本人の状態変化を見逃さないように努め、症状に変化がある場合は家族や医療機関へ状態を伝えている。	処方箋ファイルと手順書マニュアルを作成し管理者が、薬をケースに準備している。職員は服用時に、名前を読み上げ、他職員のダブルチェックを受け、誤薬防止に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付けや食器洗い、または洗濯物をハンガーに掛けたり、たたんだり、お願いできる仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。生け花やDVD鑑賞、縫物等で楽しみ事の支援を行っている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良ければ、気分転換にドライブしたり、散歩などに出掛けるように努めている。又社会見学や買い物に出掛けたり、ご家族様の協力を得て外出の機会を設けている。	日常的に近隣の散歩やドライブ、買い物等に出掛けている。定期的に全員で外出する機会も設けている。同法人施設へは月に1~2度出掛け交流している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は紛失のリスクがある為、金銭所持されている方はおらず、利用者に必要な物がある場合はご家族に相談しお金を預かり、買い物に出掛けた際に可能な限りレジで金銭の支払いが出来るよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があれば、その時々状況に合わせて、家族や知人への電話対応を行っている。また、家族に対しては外出、行事、本人の生活の様子を写真、コメントを添えた「コスモス便り」を毎月送り、状況をお知らせしている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	団らん室には、ご利用者様と一緒に作った四季折々の作品を飾り、展示する事で季節感を感じられる工夫をしたり、本人が好まれるクッション、ひざ掛け等を置いてくつろげる環境作りに配慮している。	共用空間では、映画や音楽を流し、ソファを置く等して寛ぎの空間作りをしている。廊下の窓際から外を眺め休憩できるようソファを置いている。天気の良い日は屋上ガーデンで散歩や外気浴が楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やレク等を行う共有空間では、気の合う利用者同士で座席を配置。1~2名でくつろげる空間として、廊下の窓際にソファを設置し、景色を眺めたり、CDデッキを置いて音楽を流す等、落ち着いてくつろげるスペースを作っている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や活動的だった頃の写真、思入れのあるぬいぐるみや置物、好きな雑誌や書籍等を身の回りに置き、できるだけ自宅に近い空間になるように努めている。	居室は洗面台、トイレ、エアコン、ベッドが備え付けられ、家具や小物は本人の好みの物を持ち込んでもらい、制限はしていない。壁に家族写真を飾ったり、テレビを持ち込み楽しんでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者本人が分かりやすい様、部屋の入口に写真や小物、名前入りの目印等を設置。身体機能に応じて、手すりの利用、手引き誘導時は障害物を周辺に置かない等、一人ひとりの出来る力を見極め環境整備に努めている。		